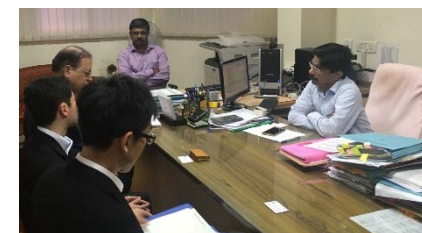


1 概要

平成28年11月の首脳会談等を踏まえ、日本の食関連企業の進出を促進するため、平成29年2月、農林水産省担当官がインド南部を訪れ、同27日にアンドラ・プラデシュ(AP)州のスリシティ工業団地を訪問するとともに、翌28日にはケララ州のコチにて政府機関であるインド水産物輸出振興局(MPEDA)や水産系企業と意見交換を実施。

2 インド水産物輸出振興局(MPEDA)との意見交換

- インド水産物輸出振興局(MPEDA)は、水産物の養殖・輸出・加工を担当する政府機関。本部はインド南西部のケララ州コチに所在。
 - 現在、インドでの養殖は限られた種類のエビ(バナメイエビ)を主に生産しているが、MPEDAはバラマンディ、カニ、ティラピア等、養殖の種類を増やすことに注力。
 - エビについては、現在、東海岸のAP州バイザック(ヴィシャーカパトナム)において、病気にかかりにくいふ化場の研究を推進。また、将来的なエビのトレーサビリティの整備に関心。
 - このほか、養殖業者の教育、品質維持・管理技術の向上、養殖に関する取組を推進。
- (○ コチでは、現地の水産物の加工会社・商社とも意見交換を実施。)



3 スリシティ工業団地の訪問

- 多品目・多業種の工業団地ではインドで2番目に大きい工業団地。
- 電気、水道、道路、下水処理施設等の基礎インフラは整備済み。生活関連施設は整備中。団地内に日本企業専用区域を設け、日本企業を集積。
- インド政府やAP州政府の企業誘致政策を利用可能。設備投資費用への補助等が存在。また、団地内に通関があり、貿易手続きが可能。
- 入居する外資系食品企業や日系製造業とも意見交換を実施。

